令和5年度　学校評価計画　　川北町立橋小学校

	評価項目と具体的取組	主担当部	評価指標	達成度判断基準	備考	取組状況	改善に向けて
Ⅰ 組織的な学校運営	**【学校教育ビジョンの具現化】** 学校運営委員会や校務委員会と職員会議を密接に連携させ、学校教育ビジョンのもと、チーム学校を常に意識し、組織的主体的に学校運営に参画する。	**総務部**	**【満足度指標】** 学校教育ビジョンを意識しながら、それを実現するために組織的主体的に学校運営に参画している	組織的主体的に学校運営に参画していると回答する職員の割合が A　９０％以上 (あてはまる＜どちらか の場合はB) B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	7月12月 教員アンケート	A （100%） 全ての職員が肯定的な回答をしている。 学力向上ロードマップを確認しながら、学校ビジョンと照らし合わせ、各分掌や担当からの提案は、全職員で共通理解のもと確実に取り組んでいる。その成果や課題を全職員で確認し、次に生かしている。	「児童は主体的であるか」という視点を常にもつ。職員も、前年踏襲ではなく、児童の実態に合った工夫や指導をし、主体的に学校運営に参画する。学校全体での取組は、全員で共通理解のもと確実にやりきり、成果や課題も共有する。
	【働き方改革】 業務の役割分担の適正化と組織的協働的な学校運営に努め、ワークライフバランスを大切にする。	**総務部**	**【満足度指標】** 職員は「ワークライフバランス」を大切にし，充実感を持って職務の遂行に努めている。	ワークライフバランスを大切にし、充実感を持って教育に当たっている。と回答する職員の割合が A　９０％以上 B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	7月12月 教員アンケート	A（90%） 教員同士の協力体制や、支援員やスクールサポートスタッフ等の適切な配置により、働きやすさにつながっている。また、それぞれの取組や指導が児童のよい姿として表れることが、教師の働きがいにつながっている。	教員のライフスタイルに合わせて、負担感なくやりがいを持って職務に当たれるよう、学年会や校務委員会等で相談、協力できる体制を更に整える。また、いつでも何でも相談できる職員間の信頼関係を構築する。
Ⅱ 確かな学力の育成	**【学力向上】** 基礎学力向上計画・学力向上プランの共通実践や児童に達成感を持たせられるようにするための授業改善に努め、基礎的基本的学力の向上を図る。	**教務部**	**【成果指標】** 取組の結果、基礎学力が向上している。	ぱっちり算数の合格者の割合が75%以上であった学年が A　全学年 B　５つの学年 C　４つの学年 D　３つの学年以下	7月12月2月 ぱっちり算数の合格者の割合	B（5つの学年） ぱっちり算数週間を設け、学年に応じた形で学期末の基礎学力の定着を図った。学年によって達成率にばらつきは多少あるが、全体としての合格者の割合は8割程度に向上している。2学期も計画的にぱっちりタイムの取り組みを行う予定である。	単元の学習が終わったあとも、継続的に学習の定着を図っていく必要がある。ぱっちりタイムでは、図形を中心に活用問題を実施していく予定であるが、計算等の基礎的な部分においても、各学年に応じて定着を図るための取り組みも計画的に実施する。
	【自ら学び、考え、ともに高め合う子の育成】 課題解決への目的意識や必要感を持たせられる学習課題づくりと、その解決に向け、子供が自己決定しながら学習活動を展開できる授業づくりを推進し、児童の自己肯定感の向上と教師の指導力の向上を図る。	**教育推進部**	**【満足度指標】** 児童が授業の中で、自分の成長を感じている。	授業の中で自分の成長を感じている児童の割合が A　　９０％以上 B　　８０％以上 C　　７０％以上 D　　７０％未満	5.月7月12月 児童アンケート	A(92.8%) 目的や必要感を感じさせる課題設定の工夫や子供が自分で取り組める展開の工夫に取り組むことで、 授業での自分の成長を感じられるようになってきている。教師が児童一人一人の考えや状況を丁寧に見取り、適切な支援を行っていくことで更なる向上を図っていきたい。	自分の考えをしっかりと持った上で学習を進めることができるように、国語科では、単元の初めに一人学習する時間を設けていく。一人学習によって教材文の概要をつかめるようにして、その後の自分で取り組める展開の工夫につながるようにしていく。また、友達と交流して学習の理解を更に深めることができるように、交流の仕方についても、授業の中で支援していく。
	【読書活動の充実】 図書館司書と連携し、毎月おすすめの本の達成状況を知らせ、振り返ることで、主体的な読書活動に向けたしかけの工夫を図る。	**教務部（図書担当）**	**【成果指標】** 学年のおすすめの本を読むことが出来ている。 （１・２年２０冊、 ３年１５冊、 ４～６年１０冊）	学年の「おすすめの本」を読み終えた児童の割合が A　９５％以上 B　８５％以上 C　７５％以上 D　７５％未満	おすすめの本の冊数 **7月**（2年7冊、1・3年5冊、4～6年4冊） **12月**（1・2年14冊、3年10冊、4～6年7冊） **2月**（1・2年20冊、3年15冊、4～6年　10冊）	D(73.9%) 図書館司書による読書環境作り、教職員の働きかけの効果もあり、児童は進んで読書をし、図書館利用を行っている。しかしまだ一部、読書への関心が低かったり、本の分類に偏りが見られ、おすすめの本に手がのびない児童がいる。	読書への関心の低い児童がおすすめの本を読んだり図書館利用をしたりするように、担任による声かけだけでなく、読書旬間や教師、図書委員による各学年のおすすめの本の読み聞かせ等行っていく。図書委員が読書意欲を高めるような企画も考え、児童に働きかけていく。３学期は、「おすすめの本」の紹介カードづくりを行う予定である。国語の授業とつなげた並行読書の活動は適宜行っていく。
Ⅲ 豊かな人間性の育成	**【みんなが安心できる楽しい学校づくり】** 学校が安心でき、楽しいと感じられるよう、生徒指導の４つの視点を意識した授業や行事で、児童を認め価値付ける。	**生徒指導部**	**【満足度指標】** 児童が、楽しく学校生活を送っている。	「学校は楽しい」と回答した児童が, A　９０％以上 (あてはまる＜どちらかというとあてはまる の場合はB) B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	7月12月 児童アンケート	B(91.4%)※どちらかというとあてはまるが多いため 「とてもあてはまる」と回答した児童の割合が、昨年度より約15%減っていた。児童が主体的に取り組める授業を目指して、生徒指導の4つの視点に関してのチェックを行い、共通理解を図ってきた。また、行事では児童にめあて意識を持たせ、活動の途中や事後に認める声かけを行い、価値付けてきた。	「とてもあてはまる」と回答した児童が大幅に減ったことから、自信を持って楽しいと感じていないと考えられる。児童の「楽しい」の捉え方を広げる取組と声かけをする。児童の思いを引き出し、その思いを実現させたり、できたことに対しての達成感を実感させたりすることを積極的にしていく必要がある。
	【道徳教育の推進】 児童が自分の思いや考えをもち、友達と議論しながら考えを深められるよう、道徳の時間を要として、構造的な板書や発問などの工夫をし、道徳教育の充実を図る。	**保健安全・体育部（道徳教育推進）**	**【満足度指標】** 児童は、自分の思いや考えをもち、友達と議論しながら考えを深めている。	「自分の思いや考えをもち、友達と話し合うことができた」と感じている児童の割合が, A　９０％以上 （いつもした＜時々　の場合はB） B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	7月12月2月 道徳アンケート	B 「とてもあてはまる」「あてはまる」と回答した児童が、82．7%だった。板書の写真を教室に掲示し、振り返る機会を設けたり、教師から折に触れて価値づける声かけをしたりできた。	児童が自分の思いや考えをもち、友達と議論しながら考えを深められるよう、より一層構造的な板書や発問などの工夫をする。また、GIGAタブレットを活用して、発表が苦手な児童の考え等、多様な考えに触れる機会が設けられるように工夫する。他にも、自分の思いを表現する方法について職員の共通理解を図り、授業で取り入れられるようにしていく。
	【児童の自主性・主体性の育成】 よりよい学校・学級づくりに向けて、委員会、学級会活動、学校行事等に自主性・主体性をもって取り組める児童の育成に努める。	**生徒指導部**	**【満足度指標】** 児童会、委員会、学級活動等において、児童はよりよい学校・学級づくりに進んで取り組めたと感じている。	行事や学校、学級の活動に進んで取り組めたと感じている児童の割合が, A　９０％以上 (但しあてはまる＜どちらかというとあてはまるの場合はB) B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	7月12月 児童アンケート	A(94.2%) 「とてもあてはまる」「あてはまる」と回答した児童が、94.2%だった。児童が企画した提案について、自分達で計画を立て準備をしたり、実行したりしている。また、代表委員会では、学校目標に対する課題について話し合ったり、よりよい学校にするためにはどうしたら良いのか考えたりしている。	引き続き、教師の積極的な声かけや価値付けをし、児童が創り上げる楽しい学校に向けて推進していく。今後は、児童が発信できる場を広げ、より主体的に活躍できる場を増やしていく。
Ⅳ 健やか身体の育成	**【体力の向上】** 体育の授業や児童の活動を主とした「体力作り１校１プラン」、「スポチャレ」の取組を通して体力の向上を図る。	**保健安全・体育部**	**【成果指標】** 11月でのミニ体力テストにおいて、20mシャトルランの記録が、５月の記録を上回る。	11月でのミニ体力テストにおいて、20mシャトルランの記録が、５月の記録を上回る児童（４～６年生）が A　９０％以上 B　８０％以上 C　７０％以上 D　６０％未満	11月 ミニ体力テスト	11月実施 1学期は、「1校1プラン」に沿って、4～6年生が授業の導入で体力づくりをしたり、体育委員会主催で、楽しみながら走る運動に取り組んだりして持久力を継続して高めた。	2学期も引き続き、持久力アップに努め、11月のミニ体力テストにおいて、評価を行う。特に、持久力大会に向けたかけ足運動があるので、児童の意欲をカードなどで喚起するようにしていく。測定前には、5月の記録を確認して目標を意識できるようにする。
	【生活習慣の確立】 げんきっ子カードの取り組みを通して、生活習慣の確立を図る。	**保健安全・体育部**	**【満足度指標】** 「げんきっ子カード」の取り組みで、生活リズムを整えている。	げんきっ子カードで「早寝ができた」と回答した児童の割合が、 A　９０％以上 (毎日＜週に3～4回の場合はB) B　８０％以上 C　７０％以上 D　６０％以上	7月12月 げんきっ子カード	C(79.0%) 早寝が「毎日できた」「週に3～4回はできた」と答えた児童の割合がそれぞれ29.4%, 49.7%だった。担任と養護教諭による保健教育や、保健だより及び掲示物を活用した啓発に取り組んでいる。	継続して定期的にげんきっ子カードを実施し、児童及び保護者へ啓発を図る。要支援児童については、個別の保健教育により早寝早起きができない背景を把握し、支援へつないでいく。また、児童保健委員による早寝早起きに関する企画を実施し、児童が生活習慣改善について自分事として捉え、関心を持つことが出来るようにする。
Ⅴ 家庭・地域との連携	**【キャリア教育の推進】** 優れた芸術文化や働く人の生き方にふれる機会を各教科や総合的な学習の時間に設け、夢や目標をもち、地域を誇りに思える児童を育てる。	**教務部**	**【満足度指標】** 優れた芸術文化や働く人の生き方にふれる特設授業や各教科におけるＧＴとの授業、地域の方とのふれ合い、地域のよさを知る機会を通して児童が学びを深め夢や目標をもっている。	町の先生との学習や地域についての学習・活動に興味をもって取り組んでいるという児童の割合が、 A　９５％以上 (あてはまる＜どちらか の場合はB) B　８５％以上 C　７５％以上 D　７５％未満	7月12月 児童アンケート	B（91．3%） 1学期は、生活科や総合的な時間の学習、社会科の授業においてGTをむかえた学習活動が各学年で行われた。また、教材そのものが地域学習であることもあり、町の先生の積極的な活用はできた。他にも、クラブ活動における地域の方とのふれあいもあり、児童は活動に興味をもって取り組むことができていた。	2学期は、150周年記念式典や巡回講演等、地域の方や優れた芸術文化に触れる機会が予定されている。また、6年の総合的な学習においては、生き方について学ぶキャリア教育の視点を含めた学習活動を、他の学年においても、各教科等で2学期以降もGTを迎えての授業を実施する予定である。児童の興味・関心が高まる形でそれぞれの活動を計画的に行っていく。
	【社会性の育成】 社会性を身につけた児童を地域ぐるみで育成するため、あいさつを重点に、家庭・地域との連携を図り、身近な人に進んで明るいあいさつができる児童を育てる。	**生徒指導部**	**【満足度指標】** 家庭・地域や学校で、児童は進んであいさつができている。	進んであいさつをしていると回答した児童の割合が、 A　９０％以上 (あてはまる＜どちらか の場合はB) B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	7月12月 児童アンケート	A(91.3%) 「とてもあてはまる」「あてはまる」と回答した児童が、91.3%だった。児童企画委員会の取組「あいさつ魔王を倒せ」では、学校全体であいさつの大切さを知り、よりよいあいさつにしようと一生懸命取り組んでいた。また、教職員全体でもあいさつについての呼びかけを行い、朝や休み時間、帰りのあいさつを積極的に行っている。	児童のあいさつに対しての意識や声の大きさは良くなってきている。機会を見つけて、外部や地域の方へのあいさつに意識を向けさせたい。そして、あいさつを通して元気が出て、楽しい学校を目指していきたい。